

第 33 回 葛飾区子ども・子育て会議 議事録

I 日時：令和3年3月24日（水）午後3時～

II 場所：ウィメンズパル 1階多目的ホール

III 出席者

1 【出席委員 20 人】

太田会長、加藤副会長、阿部委員、岩城委員、岩立委員、上田委員、緒方委員、黒沢委員、齋藤委員、佐々木委員、佐野委員、関口委員、津村委員、二葉委員、三尾委員、八木委員、池谷委員、田口委員、坪井委員、寺瀬委員

2 【欠席委員 5 人】

今井委員、遠藤委員、小林委員、星委員、山口委員

3 【区長】

青木区長

4 【事務局】

子育て支援部長、育成課長、子育て施設整備担当課長、子育て支援課長、保育課長、子ども家庭支援課長、子ども応援課長、青戸保健センター所長、教育委員会事務局放課後支援課長、他担当職員

IV 次第

1 開会

2 区長挨拶

3 議事

(1) 葛飾区子ども・子育て支援事業計画実施状況について

① 葛飾区子ども・子育て支援事業計画実施状況【資料1-1】

② 葛飾区子育て支援に関するアンケート調査【資料1-2】

③ 葛飾区子ども・子育て支援事業計画（平成27年度から令和元年度）の取組と成果等について【資料1-3】

(2) 令和3年度葛飾区予算案概要について

① 令和3年度葛飾区予算案概要【資料2-1】

② 令和3年度整備予定施設一覧（案）について【資料2-2】

(3) その他

① その他

4 子育て支援部長挨拶

5 閉会

V 配付資料

葛飾区子ども・子育て会議（第33回）次第

資料1-1 葛飾区子ども・子育て支援事業計画実施状況

資料1-2 葛飾区子育て支援に関するアンケート調査

資料1-2 葛飾区子ども・子育て支援事業計画（平成27年度から令和元年度）の取組と成果等について【資料1-3】

資料2-1 令和3年度葛飾区予算案概要

資料2-2 令和3年度整備予定施設一覧

VI 議事要旨

1 開会

会長

- 区のHP掲載等のため、職員が記録撮影する旨伝達。

事務局

- 出欠状況について報告。Web 会議システムでの出席を含め定足数に達しているため、会議が成立している旨伝達。

2 区長挨拶

会長

- 現任の委員で最後の会議となる。開会に先立ち、区長より挨拶がある。

区長

- 第4期子ども・子育て会議の委員の皆様には本当にお世話になりました。この間、令和元年度、2年度で6回開催し様々な議論をいただき、葛飾区の子育てが充実するよう取り組んでいただいた。
- 現在は、新型コロナウイルス感染症が大変厳しい状況である。緊急事態宣言は解除されたが、下げ止まり状態が続いており、リバウンドさせないよう様々な取組を進めている。
- 葛飾区内の幼稚園、保育園、小学校ではほとんどクラスターが起きていない状況であり、多くの関係者の皆様の努力の成果だと思っている。
- 一方、高齢者の施設や病院ではどうしても感染しやすい状況であり、12月から1月にクラスターが起きてしまったが、色々な対策をとってきたので、このところ落ち着いてきている。今後も区民の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っているので、よろしくようお願い申し上げたい。
- 子育てについては、区政の最重要課題として取り組んできた。その結果、様々なところで評価をいただいている。日本経済新聞社の調査も令和元年は全国第1位、令和2年が全国第2位と高い評価をいただいた。これからも子育ては葛飾区でしたいと思っただけのようにしていきたい。
- 今回の会議でアンケートの調査結果について報告がある。子育てしている方へのアンケートで、「安心して子育てができる環境について葛飾区を総合的にどのように評価しますか」とあるが、この肯定的回答が5年前の42.2%から今年は59.3%と年々上がっている。こういった状況をさらに進めていきたい。そのためには、総合的にきめ細やかな施策を進めていくことが大事なので、皆様から様々なご意見をいただき、具体的な施策を着実に進めることで、葛飾区で子育てしたいという方を増やしていきたい。そのことが結果として働く世代にとっても、高齢者にとっても葛飾区が住みやすいということにつながっていく。
- 今回、いくつか報告させていただくが、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、これからの施策を考えていきたいので、よろしくようお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

3 議事

(1) 葛飾区子ども・子育て支援事業計画実施状況について

会長

- 議事(1)について、事務局より説明をお願いする。

事務局

(資料1-1「葛飾区子ども・子育て支援事業計画実施状況」概要)

- 1ページは保育の確保状況についてで、令和2年4月時点で12,500人の定員数であり、前年と比較すると673人の定員増である。
- 第一期計画の達成状況は、計画値合計12,159人に対し341人多く確保したが、年齢別内訳では0歳児が40人不足している。
- 2ページは第一期計画で定めた保育に係る提供区域である東西南北別の達成状況についてであり、東部地域は計画値合計2,619人に対し、合計2,815人と計画値を満たしている。西部地域は計画

値合計 3,729 人対し、合計 3,914 人であり 0 歳児を除き計画値を満たしている。南部地域は計画値合計 3,582 人対し、合計 3,563 人であり、北部地域は計画値合計 2,229 人に対し、合計 2,208 人であり、それぞれ満 3 歳以上を除き計画値を満たしていない。

- 4 ページは、子ども・子育て支援事業計画における「地域子ども・子育て支援事業」、いわゆる法定 13 事業の状況を表したものであり、抜粋して説明する。
- 2 番「時間外保育事業」は、令和 2 年 4 月現在で前年度よりも 10 施設増加し、109 施設となった。5 番、「地域子育て拠点事業（子育てひろば事業）」は前年度に比べ 1 か所減、6 番「一時預かり事業」の保育所等は 1 か所増となった。
- 5 ページは、平成 27 年度の子ども・子育て支援事業計画の開始時より新たに開始した事業について記載したものの。
- 番号 1-3-3 「認証保育所認可化移行支援事業」では、「ぼけっとランド亀有」及び「エデュケアセンターかなまち」の 2 つの認証保育所に対して認可保育所へのスムーズな移行ができるよう支援を実施した。
- 番号 1-3-1 1 「子育て支援員の活用」では、東京都は実施する子育て支援員研修の見学実習に区内私立・公立保育所が協力し、研修を修了した 104 人の子育て支援員を区内保育施設や認定こども園、幼稚園などで活用した。

事務局

(資料 1-2 「葛飾区子育て支援に関するアンケート調査」概要)

- 保育所や幼稚園等を利用する保護者を対象とし、地域バランスを見ながら施設を選定し回答を依頼しているもの。
- 今年度は、配布数 2,499 部、回収数 1,569 部、回収率は 62.8%となっている。
- 3 ページの「(1) 仕事と子育てを両立するうえで、保育所・学童保育クラブなどの保育施設が整っている。」については、令和元年度に認可保育所を建て替えを含め 16 園整備したため、「そう思う、ややそう思う」の肯定的回答が増加し、「そう思わない・あまりそう思わない」の否定的回答が減少した。
- 「(2) 保育所・学童保育クラブなどの保育時間が充実している。」については、前年度よりも「そう思う、ややそう思う」の肯定的回答が増加し、「そう思わない・あまりそう思わない」の否定的回答が減少した。
- 35 ページの「(38) 安心して子育てができる環境について、葛飾区を総合的にどのように評価しますか。」については、肯定的回答が年々上昇していく傾向にあり、前年度よりも 3.4 ポイント上昇し、59.3 ポイントとなっている。これは認可保育所の整備や平成 30 年度末に区内 4 か所目の病児保育施設を整備したことが評価されたと考えている。引き続き子ども・子育て支援事業計画で定めた事業を着実に進め、区民の期待に応えていく。

事務局

(資料 1-3 「葛飾区子ども・子育て支援事業計画（平成 27 年度から令和元年度）の取組と成果等について」概要)

- 第一期計画の計画期間が令和元年度で終了したことから、今年度から 5 年間の計画期間とする第二期計画に位置付けた事業の着実な推進を図るため、第一期計画に位置付けた事業の 5 年間の「取組と成果」における「評価・分析」を行い、「今後の方向性」を検討したものを報告書としてまとめたもの。

会長

- 事務局の説明に対してご質問、ご意見を願います。

委員

- 資料 1-2 のアンケート結果について、36 ページ以降の自由意見に区民の皆さんの声が反映されていると思う。
- 父親の育児に対しての意見が多いと感じた。「母親が相談しやすい支援があると助かる。父親がアドバイスに聞く耳を持たないため」とある。全く知識がないとパパに相談できないので、学びの機会を設けるべきである。
- 「パパママ学級が参加しづらかった」「父親学級だけでなく父親のための講座を区で主催してほしい」「もう少し回数があるとうれしかった」とある。父親として育児や家事を学びたい人はいる

れど用意がない。

- 「男性に子育てを学ぶ機会を増やしてほしい」とある。平日の午前中に育児講座は結構あるが、パパの参加はなく、パパは私だけという状況があったので、参加しやすく、回数も増やし、より充実した内容にしていくべきではないかと思う。

会長

- お父さん方が参加できる機会や場所、時間や曜日の設定も含めて検討していかなくてはならないと思う。

事務局

- パパママ学級については、お父さんにも参加してもらいたい。休日に参加できないという区民の声もたしかにある。パパママ学級は土曜日の午前、午後に設定しており、ほとんどの方がペアで参加している。コロナ禍で定員を減らしているが、回数は増やしており、今後も機会を増やし、周知、啓発を図っていく。

委員

- 資料1-2の「すこやか子育て！」のアンケート結果について、子育てをされている保護者の心の部分、ソフト面についてこの結果でいいのか。気づきが少ないのではないか。「そう思う」「ややそう思う」がどのアンケート結果にもでていますが、「どちらともいえない」を含め不満感、不足感、不充足感みたいなものが保護者の裏の声としてあるのではないか。「ややそう思う」ではなく「そう思う」が少なくとも50%くらいにはならないといけないと思う。
- 調査結果のポイントが上がったところの報告だけでなく、どうしてこのような数値になっているかをこの会議で話し合うことが本当の意義だと思う。なぜ数値が上がってこないのか、目に見えないメッセージ等に関心を持って取り組んでいくことが大切。
- 具体的には妊娠中の方、新生児、乳児にかかわっている保護者が孤独になりやすい環境がある。家庭訪問を通じて、孤独にならない、コミュニケーションを絶たない、人との関係性を築くことで児童虐待は減るという結果が出ているはず。双子の家庭には家庭訪問を行っているが子どもが一人でも同じ。一人の子どもを育てている方にも関心を向けて、お母さんお父さんが外に出ているまでの家庭で行われる支援を充足させることが大事である。そこに関心を向けることが必要である。

会長

- 具体的な取組を実施しているだけでなく、取組の中身や方法について考えていくべきだと思う。
- 行政で全部を行うだけではなく、いろいろな人たちが関わっていく取組も必要で、今回のアンケートの中でも「集まる機会が少なくなってきた」「自主的にサークル活動したり、支援する講座も減っている」ということで、行政とそれを利用する住民だけではなく、それ以外の人の協力も視野に入れて、行政で全部やるということではなくて、行政が仲立ちになったりして啓発したり、環境を作っていくというのも大事だと思う。

事務局

- コロナ禍での妊娠、出産、子育ての危機というところは、私どもも苦慮して方法を考えているところです。平成29年度からゆりかご面接をしており、令和2年12月末で83%の妊娠届を出してくださった皆様とお会いさせていただいている状況である。面接の中では、まだ出産のイメージができない方が大半で、仕事や経済状況、生活状況についてお話を伺っている。産後ケアをコロナ禍でどのように進めていったらいいか模索中ではあるが、妊娠25週の時にご案内させていただいたり、今回新型コロナウイルス感染症の関係でタクシー券の追加配布ということで青戸保健センターにおいては日々10件以上のご夫婦でお見えになっている状況である。ご意見をいただきながら来年度どのようなかたちが一番区民の皆様にとってやり取りがしやすく、なおかつ安心していただけるか検討していく。

委員

- 資料1-1の5ページにあります「1-3-1保育の確保に向けた総合的な取組」という中で、保育士募集の冊子の作成と書いてあるが、私、長年就職活動に携わっているが、初めて見ました。葛飾区内の保育施設が1冊にまとまった求人票なんですよね。これを学生が見て、「うちの市にもこういった求人票はないんですか」と言われました。今年は葛飾区に就職した学生が多かったのなるほどなと思う。

委員

- 私立幼稚園や保育園が行っているひろば事業についてご説明させていただきたい。私どもの園では主に未就園児の地域の親子がいろいろネットワークを使ったり、あるいは一人で来園されて、担当職員が同じ年齢の子どもたちが集まるイベントを作ったりしている。今年でいうと早生まれの会というのをやっており、早生まれの子を持つお母さんが悩む独特な悩みを交流会で話している。また、マタニティの会というのをやっており、数か月先に母親になるお母さんと、数か月前に出産されたばかりのお母さんが意見交換をしたり、ネットワークを作ったりしている。私立幼稚園は運動会等、いろいろと未就園児の方が集まったりする機会がある中で、孤立した子育てが、特にコロナ禍では非常に増えているという実感がある。まもなく3歳で入園する子もいるが、私の感想では今年はおむつの子が例年以上に多いと感じている。おむつをとるための情報交換の場も少なくなっているということの影響なのかなとも考える。
- 葛飾区の事業でひろば事業があり、その中で例えば孤立した母親のこと、父親が子育てに参加すること、虐待の一步手前の子どもにいらいらすることが増えたとか、虐待の予備軍の方たちが集まって話を伺ったり、中にはひろばがあつてよかった、もしひろばがなかったら手をあげていたかもしれないみたいな話もたくさん受けている。加えて発達に配慮が必要なお子さんも年々増えている。そういったお子さんも早期に担当の職員と話ができることで療育へつながるきっかけになったりと、そういった意味でもひろば事業は少なからず役に立てているのではないかと思う。
- 保育園を含めると 100 以上の園が地域にはある。園の掲示板を見て飛び込みでいらっしゃる方もいればお母さんのネットワークでいらっしゃる方もいるがまだまだ網羅できない人たちがいる。特にそういった方たちこそが課題があると思う。産婦人科、母子手帳や保健センターでの検診で職員の方とひろばの情報共有ができればひろばの活性化につながると思う。

委員

- コロナ禍で虐待児童が増えているということを知り、家庭訪問型のサービスが重要だと思う。ホームスタートという家庭訪問型の事業をしているが、そのボランティアの方は平均年齢が 60 歳、70 歳なので、今の状況で家庭訪問は避けたいと言われると行ってくださいとは言えない。民間でやっているが、公的などところでやるところも必要だし、協働でやるところも必要だし、線引きをしないといけない。ホームスタートの事業は保健センターから依頼されることも多く、課題を抱えている方も多い。そういった方に頻繁に通うとなるとボランティアの方も限界があるので、ものによっては民間がやるもの、公的機関が責任をもってやること、協働でやることをきちんと分けないと限界がある。

会長

- コロナ禍で少子化 10 年くらい進んだとも言われている。今、お話があった公的なサービスでどこまでできるか、アウトリーチでいかに手が届かない、情報すら届いていないケースもあると思うので、葛飾が持っている資源の協力、協働を考えていかなければならないと思う。

(2) 令和3年度葛飾区予算案概要について

会長

- 議事(2)について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料2-1「令和3年度葛飾区予算案概要」概要)

- 2月5日に令和3年度予算案のプレス発表があった。現在開会中の区議会で審議中ではあるが、子ども・子育て支援事業に関連するものを抜粋し、主な新規事業等について説明していく。
- 「よちよちキッズ相談事業」について、子育て支援等の情報提供や育児相談等を行うことで、相談支援体制の充実を図っていく。また、相談後に育児パッケージ(こども商品券)を配布し、子育て世帯の育児支援を行っていく。
- 「養育費の受け取り支援事業」について、ひとり親世帯の経済的負担の軽減や子どもが健やかに成長できるよう、養育費の取決めの重要性を啓発するとともに、公正証書の作成に係る費用や養育費立替保証に係る契約に必要となる初回の保証料の一部を助成していく。
- 「児童相談体制の強化」について、今後の見直しについては秋には設計を終了し、令和4年度から

工事を開始したいと考えており、適宜、情報提供する。令和5年度中の児童相談所・一時保護所開設を目標に引き続き準備を進めていく。

- 「保育所の設置」について、第二期葛飾区子ども・子育て支援事業計画では令和3年度中の確保方策として、合計591人の定員を確保する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、令和3年4月入所の保育施設利用申込者数が、現時点では昨年度の3,039人から2,650人まで大幅に減少しているため、これまでと同様に計画の数値を踏まえつつも、今後の保育需要を見極めながら、新規整備に限らない様々な方策を活用し、保育ニーズに応じていく必要がある。令和3年度当初予算では、3件の保育所の整備を進めるほか、公立保育園の民営化など合わせて進めていくことで、保護者の皆様が年間を通して利用しやすい保育環境の充実を図っていく。
- 「多胎児家庭支援事業」について、多胎児家庭を支援するため、家事支援や外出時の補助を行う家事サポーターを派遣するとともに、面接及び母子保健事業利用時の移動に要する費用を助成することで、多胎児家庭の負担軽減を図っていく。

会長

- 事務局の説明に対してご質問、ご意見を願います。

副会長

- ・8ページの「子育て施設の整備方針」について。従来の児童館を子ども未来プラザに整備、改善していくことが示されている。他のところの調査で、妊産婦、子育て家庭、学童、中高生等に対して「地域に居場所がありますか」と調査をすると、中高生になればなるほど、居場所がないと答える割合が高くなっていく。そういった実態があるので、未来プラザになったあとに保育に特化しているのかもしれませんが、かつての児童館が持っていた中高生の居場所とか、中高生を支援する機能を残して、充実させてほしいと思う。

事務局

- 子ども未来プラザはすでに鎌倉で運営している。その中で中高生の支援というかたちで開館時間を延長し、夜8時まで開館している。また子ども応援事業として学習等意欲喚起支援事業というかたちで家庭や学校で課題のあるお子さんを支援する事業を展開している。これから子ども未来プラザを随時整備するが、そうした中高生に対する支援を引き続き行っていく。

(3) その他

会長

- 議事(3)について、事務局より説明をお願いします。

事務局

- 来年度は全3回会議を開催予定である。日程調整が済み次第、委員の皆様には開催通知を送送する。

4 子育て支援部長挨拶

会長

- 最後に、子育て支援部長から挨拶があるのでお願いしたい。

子育て支援部長

- 活発な議論ありがとうございました。子ども・子育て会議の第4期委員として皆様には2年間勤めていただいた。この間、第二期計画の策定で大変なご尽力をいただいた。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。
- 第二期計画までは数の話が非常に多かった。これまでは圧倒的な数の不足をどう解決していくか、皆様から知恵をいただいていた。今回、先ほどのようなご意見をいただけたということは、数の部分はひとつ目途がついたということがベースにあるからこそ新たな話として頂戴できたと思う。それが私どもの次の課題だと思う。第二期計画についても、第5期委員には進捗管理の中でいろいろなかたちで掘り下げをできればと思う。第5期も引き続き委員をお引き受けくださった皆様にはぜひお願いしたい。
- 具体的に男性の話をいただきました。がんばっていますとお話しましたが、どうやって進めてい

いのかなかなか難しい。土曜、日曜の時間だけの話ではない。内容的なものや保護者の方がそれまでに学んできた背景等、個人差が大きい中でどうアプローチをしていくのか課題がある。

- 気づきの部分や家庭訪問の話があった。例えばこんにちは赤ちゃん事業というものがある。令和元年度は訪問者が90%を超えていた。令和2年度は令和2年12月で85%くらいである。問題は残りの10%、15%の方々にどうアクセスしていくかにある。虐待の事件が起きると、孤立していた、知識がない中で不適切な親子関係が築いている家庭は情報不足もあるし、地域の支えがないということが言われている。情報アクセスが不得手の方々にどうアプローチして新生児訪問を100%にし、問題があった時に早期に支援を届けることができるのか、第二期計画の大きな課題だと思っている。できることをたくさんやっっていこうと思っている中で、例えば児童相談所についても、実際には建物ではなく、従事する職員やいろいろな事業を行っている地域の方々のネットワーク、地域の方々の支援がないと魂を入れられないと思う。ぜひ意見を頂戴しながら、魂を入れるかたちで進められればと思うのでよろしくお願ひしたい。
- 今期をもって岩立委員、緒方委員、佐々木委員、関口委員、池谷委員、田口委員、寺瀬委員におかれましてはご退任というかたちになりますが、ぜひそういった課題を地域の中で引き続き、いろいろと発信して、協働のメンバーとしてお力添えいただければ幸いである。最後になりますが、本会議では第1回から8年間に渡って協力いただいた加藤副会長におかれましては本当にありがとうございました。みなさまのお力のおかげでここまで進んで来られたと思うし、冒頭、区長が話したようにここ数年葛飾区の子育ては飛躍的に発展してきたと思っている。今後、さらに伸ばしていくためにも引き続きご支援いただくとともに、コロナ禍を一日も早く乗り切って元気に地域でいろいろな活動ができるよう願ってやまないところである。ご健康にご留意いただきながら引き続きのご支援を改めてお願いして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉会

会長

- 委員の任期満了に伴って今回の会議をもって委員を終えられる方については、これまで多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。また来年度以降、委員を継続される方につきましては、引き続きよろしくお願ひしたい。
- 本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。長時間のご協力に感謝する。